

## 慶長奥州地震津波に関する史料の記述と伝承の継承

蝦名裕一\*(東北大学災害科学国際研究所)

### § 1. はじめに

1611年の慶長奥州地震津波に関連する史料・伝承の傾向は、同時代史料が極めて少なく、現地で作成された史料に内容が記述されて流布したものが、また明治三陸津波後に実施された調査において記録された伝承に大別される。

本報告では、特に明治期に成立した史料や、この時期に実施された調査内容の分析から、慶長奥州地震津波に関する史料の記述や伝承の内容が、どのように地域で継承され、またそこにいかなる時代的な影響がみられるかについて分析、検討することにした。

### § 2. 山奈宗真の調査にみる歴史津波の史料と伝承

1896年(明治二十九年)6月15日に明治三陸地震津波が発生した後、遠野の実業家山奈宗真は被災地となった沿岸町村を7月31日から9月7日にかけて踏査した。その際、各地の役場・旧家で古文書を筆写したのが『岩手県沿岸巡回古文書収集録』であり、この中に被災地巡回の行程を記した「日誌」が合冊されている。ここで山奈は、慶長奥州地震津波に関連する史料として、山田町における津波被害の様相を記述した「山田町武藤家之古書の写」(=『新収日本地震史料』収録の「武藤六右衛門所蔵文書」に該当)や、宮古町における津波被害の様相を記述した「小本村岸俊蔵氏所蔵」文書(『新収日本地震史料』収録の「小本家記録」「宮古由来記」に該当)を筆写している。

後に山奈はこの調査の情報を清書し、『岩手県沿岸大海嘯取調書』など7冊を1903年(明治三十六年)に帝国図書館に寄贈した。その中で山奈は、『岩手県沿岸大海嘯取調書』や『大海嘯各村別見取絵図』において、先に書写した古文書の情報に加え、各地で聞き取った過去の津波伝承について記述している。

さらに、ここに収録されなかった津波由来の地名伝承については、別冊として『岩手県沿岸古地名考』として、40地点の津波由来地名を挙げており、「後世学者ノ参考に供す」としている。

ここで問題となるのは、明治三陸地震津波発生以前に実施された帝国大学理科大学の調査において、岩手県沿岸の自治体からは安政年間以前の津波に関する情報はないとして報告されていた事実である。山奈の著作の中に記述される歴史津波の情報は、当時の段階で残されていた史料情報と、明治三陸地震津波の経験から派生した伝承とが混交しており、その情報源の精査が必要である。

### § 3. 『古新手鑑』の記述の検討

『古新手鑑』(=『新収日本地震史料』収録の「古新

年鑑」に該当)は、気仙郡今泉村の吉田東岬(本名・豊助)によって記された史料である。吉田東岬は、1840年(天保十年)に生まれ、私塾で礼法を享受する傍ら、画をよくし、1921年(大正十一年)に没した。

この史料は、表紙に「古新手鑑」と題され、本扉には「仙台旧藩治中定例御用手鑑附慶安中鮭川仕置書写、天変地異抜書、維新改正、明治廿七八年日清戦争天佑神助ノ事、明治卅七八年日露戦争大略日本軍海陸大勝利」とある。

特に、天変地異に関する項目では、1853年のペリ来航や三閉伊一揆とともに、安政江戸地震や安政八戸沖地震における気仙郡の被害、1858年の彗星出現、さらに1896年(明治二十九年)の明治三陸地震津波について詳細に記述している。この中で、慶長奥州地震津波について触れられている部分があり、その内容は下記の通りである。

今を距る三百年前、慶長十六年十月廿八日大地震否大津波にて今泉・高田・浜田三ヶ村の水害不少、此三ヶ村ニ而溺死者百余人なりと、気仙大肝入山田六郎兵衛より御用讓渡引継吉田氏之旧記ニ書せり、今老人の咄にも聞伝へなり、此明治廿九年五月五日の津波ハ慶長十六年十月より莫太の逆浪なるへしといふ

ここでは慶長奥州地震が発生した際、気仙郡今泉村・高田村・浜田村の三ヶ村で大きな被害が生じた事が気仙大肝入職を山田六郎兵衛から引き継いだ吉田家に伝えられたことが記されている。吉田家は2011年の東日本大震災による津波により流失し、この留書の存在は確認できないが、同町内に居住する吉田東岬が、何らかの手段でこの史料を閲覧していた可能性は十分に考えられる。

一方で、後段の「老人の咄」では、明治の津波は慶長の津波より大きかったとする見解が記されている。この記述部分が示すこととしては、その内容の真偽はともかく、明治三陸津波の直接的体験によって、明治の津波が慶長の津波よりも大きいという認識が発生している点であり、伝承は話者の直接的体験によって変質する特性を示している。

### § 4. おわりに

慶長奥州地震津波に関する情報は、時代的かつ地域的な制約ゆえに同時代史料が稀少である。その中で後世、こと明治三陸地震津波を契機に実施された調査によって見いだされた、当時残存していた史料の情報は重要である。一方で、明治三陸地震津波の直接的体験は伝承の変容に大きな影響を与えており、その内容を十分に検討する必要がある。